

富山経済同友会

会報

2023.1月
No.311



12月会員定例会（12月8日）

CONTENTS

- 海外経済視察報告会・12月会員定例会・懇親会… 2
- 新会員歓迎オリエンテーション・懇親会 … 3
- 日本海沿岸地域経済同友会代表幹事サミット … 4
- 北陸3県代表幹事と(公社)経済同友会意見交換会… 5
- 全国代表幹事円卓会議 …………… 5
- 5 経済同友会教育担当委員会交流会 ……… 6
- 第2回委員長会議 …………… 7
- 第3回委員長連絡会議 …………… 7
- 【講演録】10月会員定例会（講師：天野 馨南子氏）… 8
- 地域創生委員会（第14回・第15回）………… 12
- 第2回とやま観光小委員会 …………… 15
- スケッチオーデション2022（人財活躍委員会）… 16
- 第4回交流委員会 …………… 19
- 第7回教育問題委員会 …………… 20
- 第10回企業経営委員会 …………… 20
- 第8回文化スポーツ委員会 …………… 21
- 第2回アスリート支援小委員会 …………… 21
- 課外授業講師派遣 …………… 22
- 教育講演会等講師派遣 …………… 25
- リレーエッセイ¹¹⁹（田村 元宏 氏）………… 26
- 活動報告 …………… 27
- 富山景気定点観測アンケート結果 …………… 29
- 今後の予定 …………… 29
- わが青春の1枚（伊勢 徹 氏） …………… 30



令和4年締めくくり 会員が一堂に会す

～ 海外経済視察報告会・12月会員定例会・懇親会 ～

12月8日(木)、令和4年を締めくくる12月会員定例会・年末懇親会がホテルグランテラス富山で開催され、会員、来賓ら約180名（オンライン参加含む）が出席した。定例会前には、海外経済視察報告会も行われた。

◆海外経済報告会

7月31日～8月7日に開催された第40回海外経済視察（アメリカ合衆国（オレゴン・サンフランシスコ））について大橋聡司副代表幹事が報告した。



大橋副代表幹事

今回の視察は8月1日～3日(午前)までは富山県が派遣する「富山県・オレゴン州友好提携30周年記念訪問団」に同行し、政府関係者や現地団体・企業関係者との交流、起業家が増加する現地の取組み調査の2つをテーマに実施、8月3日(午後)～5日は当会単独で起業家が増加する現地の取組み調査をテーマに視察を行った。

大橋副代表幹事は起業視察の報告として、ポートランド州立大学がここ10年間で140ものスタートアップを育成していることや、シリコンバレーは大企業や大学の研究機関、公的機関などがネットワークを作りスタートアップを生み出す「スタートアップエコシステム」が充実しており、世界中から起業を目指す人が集まってきたことなどを紹介した。

◆12月会員定例会

12月会員定例会は地域創生委員会（山本覚委員長）が主管し、株式会社鹿島アントラーズエフ・シー取締役社長の小泉文明氏が「鹿島アントラーズが考える地域の将来像」と題して講演を行った。

小泉氏は、ホームタウン（茨城県鹿嶋市はじめ5市）やコア商圏の人口がJ1クラブ最小規模であることなどを紹介し「小規模の街は日頃から行政と民間との距離が近く、新たなテクノロジーを導入する際のハレーションはさほど大きくならない。小さな街から大きな変化を起こすことは可能であり、都市間競争などでも勝機は十分見込める」と訴えた。続けて「これまで

ハード整備が主体であったまちづくりの分野にネット企業が参入しているように、全ての産業に大きなイノベーションが起こる可能性がある。様々なビジネスの分野で大きなチャンスとなる」と強調した。



小泉 文明 氏

次に、ファン・サポーターや企業とのパートナーシップ強化はもとより、行政と共に地域課題の解決に向けた自主事業を展開し、地域の一体感醸成やスポーツを通じた地域産業などの振興に取り組んでいるとし「スポーツチームやスタジアムが、企業や地域を繋ぐハブとしての役割を担うことは、産業・観光面だけでなく地域のブランディングなど地域全体へ大きな効果をもたらす。デジタルツールや副業人財の活用などは地方都市ほど強力で役立つ、メルカリのノウハウ活用により鹿島アントラーズの経営をアップデートし、チームやスタジアムが地域の核となり活性化に貢献していくことが将来ビジョンである」と語り、講演を締めくくった。

◆年末懇親会

続いて年末懇親会が開催され、来賓に定例会講師の小泉氏を始め、富山県から新田八朗知事、荻布佳子教育長、三牧純一郎知事政策局長、南里明日香地方創生局長、岡本達也経営管理部長、廣島伸一生活環境文化部長、中谷仁商工労働部長、富山県市長会から藤井裕久副会長（富山市長）をお招きした。

まず、麦野代表幹事が「今年も委員会活動、3年振りの海外経済視察など様々な活動を行ってきたが、来年も地域の活性化に向け、創造する経済人・行動する同友会を行動指針として、会員皆様の参加と協力をお願いします」と開会の挨拶を述べた。



麦野代表幹事

続いて来賓を代表して新田知事が挨拶し、藤井市長会副会長の発声により、当会恒例の地酒で乾杯が行われた。



新田知事

藤井市長会副会長

最後に牧田和樹代表幹事が閉会の挨拶を行い、「今年のいやなことは忘れ、来年が素晴らしい年になることを望む、それが忘年会の意義です」とユーモアを交えて語り、一本締めで懇親会を締めた。



牧田代表幹事

ようこそ、富山経済同友会へ ～新会員歓迎オリエンテーション・懇親会～

交流委員会（中沖雄委員長）は、11月21日(月)に令和4年1月以降に入会または交代された新会員を対象としたオリエンテーション・懇親会をANAクラウンプラザホテル富山で開催し、新会員31名を含む計53名が参加した。本行事は新会員の方に当会の活動を理解いただくとともに、役員らとの親睦を深める目的で毎年開催している。

オリエンテーションでは、まず、牧田代表幹事が「新型コロナウイルス感染症の影響で延期となっていたが、ようやく開催することができた。改めて皆様のご入会を心より歓迎申し上げます」と新会員への歓迎の言葉を述べ



牧田代表幹事による
プレゼンテーション

懇親会では、まず、麦野英順代表幹事から歓迎の言葉があり、「魅力ある皆様に多数ご入会いただいたことを、まずもって御礼申し上げます。富山経済同友会は活動が活発であり、シンクタンクである一方で、実際に行動するドゥタンクでもある。皆様の積極的な活動に期待したい」と述べた。



麦野代表幹事による
歓迎の言葉



オリエンテーションの様子

べ、引き続き「富山経済同友会について」と題して当会のこれまでのあゆみ・活動理念・活動状況等について説明し、行事・委員会への積極的な参加を呼びかけた。その後は新会員が一人ずつ自己紹介を実施、同友会活動への意気込みや抱負を述べた。



副代表幹事・常任幹事による自己紹介

また、中盤には副代表幹事および常任幹事が歓迎の言葉や今後の抱負、同友会に懸ける想いなどを語った。

終わりに、交流委員長の中沖雄常任幹事が「各委員会の交流も含めて、今後も同友会の交流活動を活発化させていきたい」と述べ、オリエンテーション・懇親会は盛会のうちに閉会した。



中沖委員長による
閉会挨拶

日本海国土軸形成の重要性を再認識

— 第13回日本海沿岸地域経済同友会代表幹事サミット —

日本海沿岸地域の相互交流、連携推進を目指して、平成20年9月に第1回を富山で開催して以降、今回で13回目となる日本海沿岸地域経済同友会代表幹事サミットは11月24日(木)に鳥取県立生涯学習センター（鳥取市）で開催された。

北海道から沖縄まで14道府県の同友会（北海道、青森、秋田、山形、新潟、富山、金沢、福井、京都、神戸、鳥取、鳥根、福岡、沖縄）から約150名が参加し、当会からは中尾特別顧問、麦野・牧田代表幹事ら12名が参加した。本サミットは新型コロナの影響で3年振りに開催された。

冒頭、鳥取同友会の米原正明代表幹事が開会の挨拶、平井伸治鳥取県知事が歓迎の挨拶を行った後、元国土交通省事務次官で現在、(一財)建設業技術者センター理事長の谷口博昭氏が「日本海国土軸の今とこれから～ビッグピクチャーの下、アクションを～」と題して基調講演を行った。谷口氏は太平洋側重視の国土計画により日本海側に格差が生じている経緯などを説明、「財源の裏付けのある『インフラのビッグピクチャー』に基づいて積極的に投資し、成長することが肝要」などとして日本海側の発展に有用なインフラ投資への必要性を訴えた。

続いて、日本海沿岸地域振興促進議員連盟副会長の石破茂衆議院議員が「これからの日本海沿岸地域の活性化」と題して特別講演を行った。石破議員は災害リスクの高い東京に「ヒト・モノ・カネ」が集中していることは国家のサステナビリティとして問題あり、日本海側のポテンシャルを高めていく必要がある。そのため

には産学官金労言が連携し地方創生に取り組んでいくことが必要であり、例えば農林水産業に注力し我が国の自給率を高めていくことも大切なことであると主張した。

次に、鳥取同友会の秦野博行観光戦略委員長による「山陰地方におけるインバウンド観光」と題する事例発表があった。

交流レセプションはホテルニューオータニ鳥取に会場を変え開催された。オープニングのアトラクションとして日本遺産の麒麟獅子舞が披露



麒麟獅子舞

された。鳥取同友会の松村順史代表幹事が開会の挨拶、深澤義彦鳥取市長から来賓挨拶があり、鳥取同友会の小谷治郎平副代表幹事が乾杯をして和やかに懇親会が行われた。

終盤に当会の中尾特別顧問（当サミット提唱者）は大伴家持が越中のあと鳥取にも赴任したエピソードなどを紹介した後、「いよいよ来年の金沢同友会で代表幹事サミットが一巡する。



中尾特別顧問

その後についてはまた相談していきたい」と語った。その後次回開催する金沢同友会の浜崎英明代表幹事が挨拶し、鳥取同友会の井上法雄実行委員長が閉会の挨拶を行った。

翌日にはエクスカーションが開催され、当会から麦野代表幹事はじめ6名が参加。爽やかな秋晴れのもと、



エクスカーション

「旧吉田病院と鳥取民藝美術館」、「砂の美術館、鳥取砂丘ビジターセンター」、「鳥取城跡」などを視察し、帰路についた。



谷口 博昭 氏



石破 茂 氏



日本の課題・地域の課題を協議

～北陸3県同友会・(公社)経済同友会の意見交換会～

福井・金沢・富山経済同友会および経済同友会(東京)の代表幹事らによる意見交換会が11月8日(木)ザ・グランユアーズフクイで開催された。意見交換会は(公社)経済同友会が地域の事情を知るため、平成20年から行っており、北陸での開催は今回で3度目となる。

当会からは麦野・塩井・牧田代表幹事が出席、(公社)経済同友会から櫻田謙悟代表幹事、地域共創委員会副委員長3名、福井・金沢同友会からもそれぞれ3名の代表幹事が出席、総勢24名で開催した。

櫻田代表幹事と福井経済同友会の林正博代表幹事が開会の挨拶をした後、同友会毎に取組み報告を行った。櫻田代表幹事は10月に発表した提言『「生活者共創社会」で実現する多様な価値の持続的創造－生活者による選択と行動－』について説明。これからの日本は経済の規模だけでなく、社会のあらゆるステークホルダーの

幸福という質的な成長を追求すべきであり、イノベーションとダイバーシティの推進が大切であると主張した。北陸3県は幸福度ランキングが高く、女性の就業率・共働き率が高く、学ばべきところがあるとも発言した。その後、当会は麦野代表幹事、金沢同友会は福光松太郎代表幹事、福井同友会は林正博代表幹事が取組みの紹介を行った。

その後、意見交換が行われ東京一極集中の是正についても議論。「全く進捗しない問題、関係人口の増加を推進したほうが現実的である」などの意見が出た。



全国セミナーなどをテーマに群馬で開催

— 全国代表幹事円卓会議 —

12月5日(月)、2022年度全国経済同友会代表幹事円卓会議が、全国の各地代表幹事をはじめ総勢119名が参加して、群馬県高崎市のGメッセ群馬で開催された。当会からは麦野代表幹事が参加した。

(公社)経済同友会 櫻田謙悟代表幹事の開会挨拶の後、開催地である群馬経済同友会の齋藤一雄代表幹事から歓迎の挨拶があった。

議事では今年度の全国経済同友会セミナーとして、ひょうご・神戸大会中止に係る費用分担案、特別プログラムの収支案が承認され、また今後の全国セミナーの企画案や開催地・



麦野代表幹事

日程等も承認された。その後、各地同友会の取り組みについて、北海道・山形・静岡(浜松協議会)・

鳥取・東京から発表があった。

来賓講演は群馬地域学研究所代表理事の手島仁氏が



『蚕糸先進県から内陸型重工業県、そして政治王国へ—群馬県の歩みと特長—』と題して講演し、群馬県が戦前は製糸業先進県、戦後は重工業県となった足跡、4人の総理を輩出する政治王国になった歴史的背景などを説明した。

なお、会議に先立ち、1872年(明治5年)に開業し、日本の近代化に大きく貢献、2014年には世界遺産として登録された富岡製糸場を視察した。



第9回 5 経済同友会教育担当委員会 交流会

栃木県経済同友会主管 オンライン開催

11月4日(金)、「第9回 5 経済同友会教育担当委員会交流会」が栃木県経済同友会主管でオンライン開催された。当交流会は、当初7月22日(金)に栃木県内の会場で開催予定だったが、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて延期となり、オンライン形式での開催となった。当会からは教育問題委員会の高瀬幸忠委員長はじめ委員16名、教育現場から県立高等学校の教諭2名が参加した。

オープニングでは栃木県同友会 松下正直筆頭代表理事より、「VUCA時代では、今までの常識では対応が難しくなっており、経済界が教育界をサポートすることが求められている」と開会挨拶があった。



松下正直筆頭代表理事

次に、「キャリア教育の充実」をテーマに令和元年度から令和3年度までの各同友会の活動報告及びパネルディスカッションが行われた。

中部同友会からは、教育を考え行動する委員会委員長九鬼綾子氏より、中学生・高校生向けの出前授業のほか、令和2年度からは、大学生を対象に、より深く考えをめぐらすことに重点を置いた、少人数・対話型のプログラムを実施していると紹介があった。



九鬼 綾子 氏

当会からは、高瀬委員長が教育問題委員会の活動を報告した。中でも、海外教育事情視察は、他の同友会にはない取組みであり、他のパネリストから質問が寄せられるなど、参加者の関心を惹いた。



高瀬委員長

群馬同友会からは、次世代育成委員会副委員長大森昭生氏より、講師カタログを作成し、中

学・高校に配付して社会人講師派遣事業の普及啓発を行っていること、高等教育機関と包括連携協定を結んで、連携を強化していることなどの説明があった。



大森 昭生 氏

新潟同友会からは、教育問題委員会委員長阿部尚義氏より、出前授業は小中高のみならず専門学校や大学も対象としていること、出前授業ではドローンの実演が人気を博していることなどの説明があった。



阿部 尚義 氏

栃木県同友会からは、社会貢献活動推進委員会委員長の名村史絵氏より、小中高への講師派遣に加え、平成23年度に大学コンソーシアムとちぎと協定を結び、県内すべての高等教育機関に講師を派遣できる仕組みづくりを行ったと説明があった。



名村 史絵 氏

最後に、パネルディスカッションコーディネーターの作新学院大学経営学部特任教授杉本育夫氏が、「社会が大きく変革する中、キャリア教育を進めるためには、学校対企業、学校対自治体といった、「学校対1つの組織」ではなく、企業、経済同友会、商工会議所、国、自治体、地域、保護者などのすべてを総動員して連携していかなくてはならない」と訴えた。



杉本 育夫 氏

閉会挨拶では、次回開催地となる中部同友会の九鬼氏が「来年は名古屋で皆様にリアルでお目にかかれることを楽しみにしている」と述べ、閉会となった。

今後の委員会体制など活発に議論 ～ 第2回委員長会議 ～

11月9日(水)、令和4年度第2回委員長会議が富山電気ビルディングで開催され、常任幹事以上の役員と各委員会の委員長ら19名が出席した。

桶屋泰三副代表幹事が会議を進行。各委員長から今期の委員会の進捗状況と今後の活動予定について説明があり、その後、委員会毎に活動内容について意見交換を行った。



桶屋副代表幹事

3つの委員会（人財活躍・教育問題・地域創生）が提言をまとめる予定で、各委員長から提言の方向性について説明いただいた。

また、来年度以降の委員会体制について、高林幸裕企画委員長が各委員長に意見を求め、活発な議論がなされた。



委員会活動の総括に向けて ～ 第3回委員長連絡会議 ～

12月19日(月)、ラ・ロカンダ・デル・ピットーレ環水公園において、第3回委員長連絡会議（高林幸裕企画委員長）を開催し、委員長7名が参加



した。同連絡会議は委員長相互の情報共有・連携・啓発を目的に、四半期に1回開催するものであり、今回は3回目の会議となった。

高林委員長の挨拶の後、各委員長から活動実績に加え、年度末に公表予定の提言や報告書の構想について報告があった。どの委員会も委員会活動の総括に向け活発に活動していることが伺えた。また、提言の内容について、委員長間で忌憚のない議論が交わされ、今後に向けて意義深い会議となった。

終盤は、高林委員長から来年度以降の委員会の再編の方向性と再編案について説明がなされた。

データで読み解く「富山の人口問題」 ～なぜ企業経営者が鍵を握るのか～

(株)ニッセイ基礎研究所 人口動態シニアリサーチャー 天野 馨南子 氏



(プロフィール)

東京大学経済学部卒。日本証券アナリスト協会認定アナリスト (CMA)。1995年日本生命保険相互会社入社、1999年から同社シンクタンクに転出。専門分野は人口問題 (特に少子化に関する社会の諸問題)。総務省「令和7年国勢調査有識者会議」構成員、内閣府少子化・共同参画関連有識者委員、地方自治体・法人会等の人口関連施策アドバイザーなどを歴任。エビデンスに基づく人口問題 (少子化対策・人口動態・女性活躍・ライフデザイン) 講演実績多数。著書に『未婚化する日本』(白秋社、2021年)、『データで読み解く「生涯独身」社会』(宝島社、2019年) 等

地方創生の取組みにも関わらず東京への一極集中は一向に止まっておりません。コロナ禍で地方へ人口が戻ったような感覚がもたれがちですが、2020年には東京圏で9万人以上、昨年も8万人以上の人口が純増する一方で、大阪圏、中京圏、九州圏は大純減を起こしています。SDGsや技術革新、DXなどは全て地域の人口の未来ありきの話です。人口消滅の危機回避策を棚上げにした地方創生はあり得ません。

今回の講演では質問形式を取ります。皆様の間違うことをご自身の思い込みに気づき、それを基に何ができるかを考えていただきたいからです。

◆ 人口減の主因とは

・富山県の出生数の激減状況

質問1、富山県の出生数は1970年から2020年の半世紀でどれだけ減ったでしょうか。①24%減、②33%減、③52%減、④64%減。一答えは④です。64%減少し、もはや富山県で生まれた52歳の方が赤ちゃんだった頃の3分の1しか生まれていません。

国全体では57%減ですが、減少率1位は75%減の秋田県。富山県はワースト11位で、山形や愛媛とともにトップクラスに出生減が深刻な県になっています。

質問2、1995年から2020年の四半世紀では出生数はどれだけ減ったのでしょうか。①3割減、②4割減、③5割減。一答えは②、38%の減少で、今2歳の子は27歳の方の6割しかいない状況です。そして、50年で64%減、25年で38%減ですから、減少は加速しています。

また、婚姻届を分析しますと、日本では、男性は27歳、女性は26歳が結婚のピーク年齢ですが、富山県では、この年齢到達前の25年間、親子1代待たずに出生数が6割になっていることがわかります。減少率ランクは20位で、7割を保つ全国水準と比べても減少が大きいです。

・合計特殊出生率では語れない「少子化度合い」

富山県の合計特殊出生率 (TFR) は2020年で全国21位、21年も20位と全国平均より高いので、少子化対策の会議でも、前向きに考えているというご発言が出ますが、TFRは「域内」出生率を示すものであり、少子化度合いを語れ

KOUENROKU

ないことにご注意いただかなければなりません。

質問3、富山県のTFRは2020年に1.44でしたが、これは1970年の何%水準でしょうか。TFRとは、調査年の結婚・出産動向から、富山にお住まいの女性1人当たりが、15歳から49歳までに授かる赤ちゃんの数の推計値です。①74%、②54%、③34%、④24%。一答えは①、半世紀で74%水準に減少とはいうものの、まだ1970年時の7割をキープしており、全国水準の62%を上回る女性1人あたり出生数については優秀な水準です。

そこで疑問になるのは、50年間で富山県内のTFRは74%水準と全国平均を10ポイント上回る高水準を維持しているのに、なぜ出生数は36%水準に激減しているのかです。

・出ていく人は考えない？

「県内努力、去りゆく人には届かない」。ゼロに何を掛けてもゼロですから、子育て支援、不妊治療といえども、いない女性に何を掛けてもゼロなのです。

質問4、富山の2012年から2021年までの直近10年間の転出超過数の男女アンバランス度（女性転出数/男性転出数）は全国何位でしょうか。47都道府県中、転出超過が38県ある中で、①33位、②23位、③13位、④3位。一答えは④の3位です。

1位の群馬県は、増やした男性の7倍の女性を減らしています。2位の石川県は男性の3倍、3位の富山県は男性の2.7倍の女性を失っています。38県の平均が1.3倍ですから、女性が男性を大きく上回って逃げている状況です。富山県の純減は、男性3,700人に対して女性は1万人を超えます。群馬をはじめ富山や石川、福島、岩手などでは、特に女性の居場所がないというジャッジになりそうです。

女性がいなくなると、出生数に大きく響くことが統計的に出ております。2016年から20年の直近5年間を見ても、女性の社会増減数と出生



数は相関係数0.83の強い相関があります。つまり、女性を純減させれば、その分出生数が落ちていくということです。

子育て支援や妊活支援は富山に残って家族を形成した女性向けの支援で、転出した女性には届きません。富山を去りゆく女性を視野外とした少子化対策をしてしまうと、取り返しがつかないことになってしまいます。

質問5、富山から最も多く去っていく人々は？ ①10代後半男性、②10代後半女性、③20代前半男性、④20代前半女性、⑤アラサー世帯（子育て期）、⑥高齢者一答えは④の20代前半女性が激減しています。

コロナ禍で全国的に出止まりした2020年と21年の2年間を取っても、富山は3,750人減っていますが、そのうち2,499人が女性です。つまり、富山の社会減の約7割は女性に起因しています。また、減少の42%が20代前半女性（1,570人）に集中しています。

地方創生や社会減というと子育て世代の女性の話ばかりされますが、さにあらず、就職で女性大流出が起きているのです。流出のトップが大学卒の22歳女性、次が専門学校卒の20歳女性です。あらゆる学歴層の女性が逃げて行っています。

つまり、富山県を去り行く人の問題を放置しての男性への就業支援、女性への妊活・子育て支援一辺倒による移動増や出生増の発想では、

富山の出生数減少は止まりません。人口減の主因は、就職を機に富山から若い女性がいなくなることです。残った女性への支援だけでは、出生数が激減していくのは当然です。

赤ちゃんの減少というと、夫婦が子どもを持たなくなったせいだとするアンコンシャス・バイアスが強いのですが、実際は、半世紀で富山県の夫婦当たりの子どもの数は、減るところか微増しています。一方、1970年と比べ、2019年の富山県の婚姻数は44%、出生数は38%に減少しています。婚姻数と出生数は相関係数0.95と非常に相関が強く、カップルなくして出生なしの状況です。出生数を増やしたいのなら、婚姻数を増やす必要があるのですが、肝心の20代前半の就職期の女性が男性の3倍転出しております。富山県の少子化対策、地方創生政策で、20代女性の就職問題がメインになったことはあったでしょうか。

◆ 古い価値観から脱却を

質問6、今の未婚の若者たち（18～34歳）が理想とするライフデザインは？ ①両親のように夫が稼いで妻を養う、②子育て期は妻が仕事を一旦やめ、後にパート職で働く、③共働きのダブルインカムで夫婦二馬力安定、④子どもはいなくて良い—答えは③、二馬力安定です。

今の20代男女はバブル崩壊（1991～93年）後に出生していますので、バブルへの憧れは持た

ず、親世代、祖父母世代とは夫婦観や労働価値観が全く違います。男女雇用機会均等法が施行され、1995年に日本は共働き世帯と専業主婦世帯が半々になり、2010年頃から一気に共働き世帯が増え、厚生労働省の最新の労働力調査では7割が共働き世帯となっていますが、今の20代男女は自分の両親の支えあって働く姿を純粋な目で見て、肯定しているということです。

また、国立社会保障・人口問題研究所が5年定期で行う出生動向基本調査の最新（第16回（2021年））の結果として、18歳から34歳の未婚男性のうち専業主婦の妻を望む割合は6.8%と前回調査（2015年）の10.1%を下回りました。大きな違いがパート職妻を望む割合で、前回調査の37%に対し29%と3割を切りました。夫婦で働き続ける両立コースは39.4%で、4割の男性が子育て期に関係なく一生働く妻と結婚したいと回答しています。それに対して、第9回調査（1987年）当時の男性は、今や五、六十代ですが、専業主婦妻希望が4割で、ダブルインカム希望は1割しかありませんでした。

一方、8歳から34歳の未婚女性は、専業主婦希望が13.8%に急減、両立コースは34%と急増していますが、若い男性の方がより強く共働きを希望している状況です。このように、結婚適齢期の男女とも、今の五、六十代の男女、かつての若者とは真逆の家族価値観や就業価値観を持っています。

未婚化社会は高学歴化した女性の意識変化のせいではありません。エビデンスをちゃんと見ますと、むしろ皆様の息子様や男孫様に、女性以上に大きな意識変化が起きており、新しい家族の形を彼らが切望していることにお気づきいただきたいのです。

ただ、女性が働いたら子どもが減るという議論があるかと思しますので、次の質問をします。質問7、富山県の子どもがいる世帯で、子どもが多い世帯は？ ①専業主婦世帯、②共働き世帯、



KOUENROKU

③同じくらい。一答えは②、共働き世帯です。

2020年国勢調査からの算出ですが、子どもがいない世帯は、専業主婦世帯42%に対して共働き世帯30%。また、18歳未満の子あり世帯における割合は、共働き世帯は2子以上世帯が最も多く69%なのに対し、専業主婦世帯は1子世帯が最も多く42%となっています。専業主婦世帯は、子なし世帯率も高いのですが、子どもがいても一人っ子が多い状況です。

質問8、2021年の4年制大学進学率は？

①男性38%、女性28%、②男性48%、女性36%、
③男性58%、女性48%、④男性58%、女性52%
一答えは④で、男女は6ポイントの僅差。

同じ学びを経たのに与えられる就業環境が不平等なら、去っていくのは当然です。アンコンシャス・バイアスはなぜ起こるのか。4年制大進学率を見ますと、例えば今40歳の方は、当時女性3割に対して男性は5割でした。教育格差があるから、男性は難しい仕事、女性は補助の仕事という考えになるのは致し方なかったところもあったのです。しかし、今は学歴が男女で拮抗しています。

今はD&I、ダイバーシティ（多様性）をインクルージョン（内包）することが求められます。多様性を認めるほどお互いの違いは明確化しますから、そこに対立や離散は生まれやすくなります。だからこそインクルージョンできる寛容な社会しか選ばれなくなります。それが令和時代だと改めてご理解いただきたいのです。

◆ 鍵は富山の経営者が握る

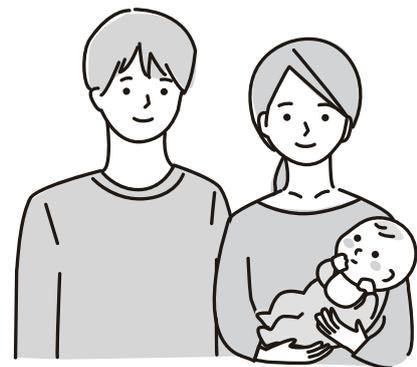
「若者に選ばれる富山へ 世代価値観格差からくる不寛容さを乗り越えて」。

まとめますと、富山県は全国11位の赤ちゃん消滅、人口消滅危機にあるエリアです。富山県内の出生率は富山に残った女性の話にすぎず、富山に残った人にだけに優しい目線では人口消滅は回避できません。若い女性の就職転出をメ

インテーマにしなければ富山の人口の未来はありません。

ダーウィンの名言に「生き残るのは変化し続ける者」とあります。また、「狂気とは、同じことを繰り返し、違う結果を期待すること」。これは経営の名言です。

富山県の人口の未来は、政治家でも自治体でもなく、ここにいる経営者の皆様が鍵を握っておられます。皆様のご英断こそが富山の未来を変えるのです。



富山・福井 観光連携のあり方を考える

～ 第14回地域創生委員会 ～

11月18日(金)、第14回地域創生委員会(山本覚委員長)が開催され、委員ら16名が参加した。今回は、北陸新幹線敦賀延伸を見据えた福井県の観光戦略を学んだ第9回委員会(6月29日(水)開催)を踏まえ、実際に福井の観光地を視察したものである。

【東尋坊】

荒々しい岩肌の柱状節理(岩体が柱状となった規則性のある割れ目)が約1km続く岸壁で、国の名勝・天然記念物に指定されている。岸壁の高さが20m以上に及ぶ“大地の岸壁”に日本海の荒波が打ち寄せる姿は相当の迫力がある。遊覧船が就航しており、海側から自然の造形を観ることができる。



【三國の街並み】

三國湊は江戸～明治にかけて北前船交易で栄えた港町である。格子戸が連なる町家や豪商の面影など、往時を想わせる情緒ある街並みが残されている。三好達治や高見順、高浜虚子など多くの文学者がこの地で過ごしたことでも有名である。



(1) マチノクラ

三國湊町の家運・文学の歴史を学べるミニ資料館。館内の展示・九頭竜河口を望める「マチノニワ」では三國湊町家の空間と文学の香りを感じられる。



(2) 旧岸名家

岸名家は江戸時代の材木商で、その町家が復元されている。立派な造りから豪商の裕福な暮

らしぶりが伺えるとともに、切妻造妻入屋根の前方に平入の表屋を付けた「かぐら建て」と呼ばれる建築様式は三國独特の形式である。



(3) 旧森田銀行本店

廻船問屋・森田家が建てた、福井県内最古の鉄筋コンクリート建造物(大正9年建設)。西欧の古典主義デザインの外観や豪華な漆喰模様の内観など、高い建築思想が随所に見られる。



【一乗谷朝倉氏遺跡博物館・復原町並】

朝倉氏は但馬国朝倉庄出身の武士で、南北朝時代に越前に入国。応仁の乱を契機に戦国大名となり、5代100余年にわたり越前を統治した。出土品や石敷遺構の展示、原寸で再現された朝倉当主の館、復原された武家屋敷の町並みなど、朝倉氏の治政の一端を伺い知ることができる。(副館長の川越光洋氏に解説を頂きながら視察)



【名勝 養浩館庭園 (旧御泉水屋敷) おせんすい】

福井藩松平家の別邸で、江戸時代初期から中期にかけて造られ、現在の姿に整えられたのは7代藩主松平昌明 (のち吉品と改名: 1686-1703) の時とされる。池を中心に数寄屋造りの屋敷と周囲の園路から成る廻遊式林泉庭園となっており、藩主一族の住居、茶会・饗応などに使われていた。1884年 (明治17)、松平春嶽により「養浩館」と命名された。



【北陸新幹線金沢開業効果・敦賀延伸に向けて】

移動時間を利用し、北陸新幹線金沢開業による効果と敦賀延伸により目指すべき発展の方向性について一般財団法人北陸経済研究所 調査研究部担当部長の藤沢和弘氏より解説いただいた。

藤沢氏は、金沢開業による富山県の直接的効

果について、開業前は約118億円と試算していたが、観光産業に対するインパクトとその他産業への影響が大きく、開業後1年間での実績として計421億円 (観光154億円、産業267億円) と当初試算の2倍程度であったとした。その上で、敦賀延伸を見据え「北陸新幹線はまだ未活用、新幹線対応とは“地域が持続していくうえで何が必要か”を地域全体で考えることである。観光だけでなく、新産業の振興や“地域オリジナル”の対応が重要である」と強調した。



藤沢 和弘 氏

懇親会は「福井経済同友会との交流会」として、林正博代表幹事はじめ福井経済同友会会員ら4名を交え、意見交換・交流を行った。

参加者は視察を通じ、福井県引いては北陸3県での観光連携のあり方に関する知見を深めるとともに、福井経済同友会との交流など充実した視察となった。

【行程】

- (1) 東尋坊 視察
 - (2) 三國の街並み 視察
 - (3) 昼食 (越前そば)
 - (4) 一乗谷朝倉氏遺跡博物館・復原町並 視察
 - (5) 養浩館庭園 視察
- (懇親会) 福井経済同友会との交流会

SDGs



観光振興などで連携 ～ 福井経済同友会との交流会開催 ～

11月18日 (金)、第14回地域創生委員会 (福井視察会) に併せて、福井経済同友会との交流会を長者町いわし屋 (福井市) にて開催した。当会からは麦野英順代表幹事、大橋聡司・高林幸裕両副代表幹事、山本覚地域創生委員長をはじめ15名、福井経済同友会からは林正博代表幹事はじめ4名が参加した。

麦野代表幹事は「福井は自然や歴史、文化、職など観光に重要な要素が揃っており、関東圏の方には大変魅力的である。北陸3県の経済人が連携を深め、情報発信を含めた観光振興に取り組みたい」と、両



麦野代表幹事

会の観光連携を呼びかけた。

林代表幹事も「今後のインバウンドの取り込みに対し北陸が一体となれば、大きな魅力を発信できる。まずは福井と富山が手を組み、観光振興を推進してい



福井経済同友会 林代表幹事

きたい」と応じ、2024年春の北陸新幹線敦賀延伸やアフターコロナを見据えた観光振興に向けて連携していく意向を示した。

交流会では今後の連携の在り方などに関し積極的に意見交換するなど盛会となり、両会の結束をより強固にする有意義な交流会となった。

日本酒から富山の魅力再発見

～ 第15回地域創生委員会(とやまマイクロ日本酒ツーリズム) ～

12月1日(木)、第15回地域創生委員会(山本覚委員長)が開催され、委員19名が参加した。今回は、日本酒をテーマに富山の観光戦略を考える「とやまマイクロ日本酒ツーリズム」と称し、当会会員が所属する酒蔵を廻るものである。

【成政酒造株式会社】

明治27年(1894年)創業。戦国時代に越中国主であった佐々成政が戦の最中に水を求めて槍を振るい、地を突いたところから湧き出たとされる「槍の先の水」を仕込み水としていることから酒銘を「成政」としている。

南砺市産山田錦をはじめ地の米・水を使用して醸造しており、華やかな香りとキレの良さがありながら、濃厚で芯のある分厚い旨味が特徴である。

富山県立大学、東京大学などと共同で、新たな風味を持つ日本酒の開発・製造技術に関する研究を推進している。

(代表取締役の山田喜代美氏、取締役の山田雅人氏に解説いただきました)



【若鶴酒造株式会社】

文久2年(1862年)、越中の豪農が加賀藩より免許を受けて創業。明治20年(1887年)頃に現在の本社所在地へ移転。米騒動や第二次世界大戦などの苦難を技術力向上や施設改良等で乗り越え、生産量の増加と品質の向上を実現する。

銘柄「苗加屋」は創業家が江戸時代に旧砺波郡苗加で営んでいた旅籠「苗加屋」が、「玄」は中国唐代の禅僧・臨済義玄の言行をまとめた書「臨済録」中の言葉「三玄(「玄」は奥深いことの意)」がそれぞれの由来であり、濃醇ながらもキレのある飲み口が特徴である。

第二次大戦中よりウイスキー製造も手掛けており、現在は北陸唯一の見学可能なウイスキー蒸留所としても親しまれている。

(三郎丸蒸留所を視察させていただきました)



【富美菊酒造株式会社】

大正5年(1916年)創業。すべてのお酒を大吟醸と同じ手順で醸造する「本場にいい酒だけを少しだけ造る蔵」を理想に掲げ、原料から製造工程の細部に至るまで強いこだわりと意志を持ち、高品質の酒造りを行っている。

代表銘柄「羽根屋」には「翼が飛翔するが如く、呑む人の心が浮き立つような日本酒として存在したい」という願いが込められている。「富美菊」は菊のように美しい富山の代表酒であれとの思いから、菩提寺の住職により命名された。甘くフルーティな香りと濃醇な味わい、さらりとした喉ごしが特徴である。

国内はもとより海外の品評会でも数多くの受賞歴を持ち、高い評価を得ている。

(代表取締役(杜氏)の羽根敬喜氏、羽根千鶴子氏に解説いただきました)



【株式会社榎田酒造店】

明治26年(1893年)、創業家が北前船で北海道・旭川に渡り創業。明治38年(1905年)に現在地・富山市岩瀬に移る。

代表銘柄「満寿泉」は、岩瀬に移った直後は「岩泉」という銘柄であったが昭和の始め頃、港の芸者衆に飲んでもらおうと、今で云う別ブランド展開として苗字の榎田にちなみ「満寿泉」と命名し販売したことが始まりである。

吟醸酒がまだ珍しかった昭和40年代半ば、社運をかけて吟醸造り(精米割合60%以下の白米を原料に低温で長期間発酵させる製法)を始め、厳選した原料と卓越した技術により、吟醸蔵としての地位を確立している。

濃醇な味わいと柔らかい口当たり、豊かな旨味が特徴であり、運営する立ち飲みバー「沙石」では約100種類の日本酒を試飲できる。

(「沙石」にて試飲させていただきました)



【国内酒類市場の概況】

移動時間を利用し、国内酒類市場の概況について山本委員長が解説した。

山本委員長は、①人口減少・少子高齢化を背景に酒類販売・一人当たり消費数量ともに近年は減少傾向であること、②直近10年間では飲酒習慣のある年代が50代から60代へシフトしていること、③酒類価格について、ウィ



スキーは大きな価格上昇がみられるが日本酒は価格低下傾向が続いていることなどを、データをを用いて説明した。

視察後、懇親会をピアット スズキ チンクエにて開催した。参加者は視察を通じ、富山県内の酒蔵の歴史や醸造技術、原料へのこだわりなど酒造りに対する熱い想いに触れるとともに、観光資源としての可能性を確信するなど充実した委員会となった。

フィールドワーク総まとめ、着々と進行中 ～ 第2回とやま観光小委員会（冊子編集会議・フォトコンテスト審査会）～

12月21日(水)、第2回地域創生委員会とやま観光小委員会（山本覚委員長）が富山電気ビルディングにて開催され、委員ら19名が参加した。今回は、今年度開催したフィールドワークを対象とした冊子（ガイドブック）第1校の編集会議、フォトコンテスト審査会を行った。

【冊子編集会議】

冊子第1校について、冊子デザインを担当する(株)ワールドリー・デザインの明石代表取締役はじめデザイナーより、今年度実施した全6コースに加えて立山黒部アルペンルートやツーリズム（ワイン・日本酒）を加えた、冊子全体の構成などについて説明があった。意見交換では、参加者コメントの表記や写真の選定に加えて、訪問場所とのリンクの充実（QRコードのさらなる活用）など冊子を手取る人に興味を持ってもらい、役立つ内容とするための意見が多数出され、活発な編集会議となった。



デザイナー(左端:明石代表取締役)



活発な意見交換

（令和5年3月の完成に向けて引き続き、小委員会にて編集作業を進めていきます）

【フォトコンテスト審査会】

フィールドワーク参加者より提供された1,400枚超の写真のうち撮影者からの応募作品に小委員会委員による推薦作品を加えた計78枚

がコンテストにエントリーされた。審査は「景色」「人」「ベストショット」の3部門を設定し、委員の投票により各部門の上位3枚を選出する形式とした。秀逸なエントリー作品を前に、参加者は相当悩みながらも厳正に審査を行い、受賞作品が選定された。



厳正に審査

（審査結果は第17回地域創生委員会（令和5年1月30日(月)開催）後の懇親会にて発表するとともに、令和5年3月発行の会報に掲載します）

【提言の方向性説明】

フォトコンテストの集計時間を活用し山本委員長が提言の方向性について説明した。

提言は「ポストコロナ／ウィズコロナにおける富山観光のあり方」をテーマとして、富山における観光の現況を整理するとともに、講演会や県外視察、フィールドワークなど今期委員会にて積み重ねてきた知見を基に、富山の観光振興に向けた課題を抽出し、これからの観光施策の方向性について提言する内容とすることが提示された。併せて、今後の進め方として第17回地域創生委員会にて提言案に対する意見交換を実施し、その内容を反映し取りまとめていくこととした。



出席者からはより良い冊子づくりに向けた建設的な意見が多数出されるなど、成果の総まとめが着実に進む小委員会となった。



新たな業を起こすとは

～ スケッチオーデション2022 ～

●スケッチオーデションとは・・・

富山経済同友会（人財活躍委員会：浅林孝志委員長）、とやま未来共創チーム、富山ニュービジネス協議会、富山大学が共催する地域人材の育成・発掘を主目的としたビジネスプランコンテスト。

最大の特徴はコンテスト本番ではなく、新たな事業を志す参加者とメンターによる「学び合い、支え合う」過程を重視している点であり、2023年3月19日(日)の決勝大会に向けてビジネスプランの考え方のインプットとアイデアをブラッシュアップする過程が設けられている。

プログラムの総合プロデューサーを富田欣和氏（関西学院大学 専門職大学院経営戦略研究科 教授）、メンター担当講師を渡辺今日子氏（慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科 特任助教）が務めるほか、毎回、ゲスト講師による特別講演が開催されている。

今年度は総勢81名（参加者66名、メンター15名）が3月のコンテスト本番に向けて、学びを深めている。

■次回以降のスケジュール

※会員様は聴講が可能です。ご希望の場合、事務局までお申し付けください。

回数	日時（予定）	内容	会場
Day 5	2023/1/21(土) 13-17時	・特別講演 ・アイデアのブラッシュアップ	富山大学五福キャンパス 経済学部棟 201 教室
Day 6	2023/2/18(土) 13-17時	・特別講演 ・アイデアのブラッシュアップ	富山大学五福キャンパス 共通教育棟 C21 番教室
Day 7	2023/3/18(土) 13-18時	予選プレゼンテーション大会	富山大学 黒田講堂
Day 8	2023/3/19(日) 14-18時	決勝プレゼンテーション大会	オークスカナルパークホテル富山

● Day 2（11月2日(土)）

開催2日目となるこの日の特別講演は、富山大学 学術研究部 芸術文化学系 講師 岡本 知久氏が登壇。参加者の新たなチャレンジに向けて、「どうやってヒトの興味をつかみ取るか」をテーマに講演を行い、広告デザインのテクニックでアイデアの魅力を伝えるコツである「コミュニケーションをデザインすること」について、一同にレクチャーした。

まず岡本氏は、広告デザインで重要なことは、「課題を解決し、ユーザーに発見と気づきを提供すること」と述べ、広告をデザインする時、「商品を購入する行為を通してユーザーが得られる価値は何か」を考慮することが大切であると訴えた。

また、その価値を伝えるために「何を言うか」、そして広告の最終目標である「人を動かし、モノを動かすこと」のために「どう言うか」を考



岡本氏

えることが重要であると述べたうえで、広告の本質は「人を動かし、モノを動かすコミュニケーションをつくり出すことである」と語った。

加えて、ここで大切となるポイントについて言及。まず受け手がメッセージを受け取る時の3つの反応である①常識、あたりまえ、誰もが知っていること②知っているけど、普段は意識の下で眠っていること③理解不能なことを紹介した。そのうえで、大切なのは「②知っているけど、普段は意識の下で眠っていること」とし、受け手に「そういえば、そうだよ。なるほどね」という発見がある時、人は興味を持つ（＝自分事化する）と伝えた。

続いて、企業広告の例を用いて、印象に残る広告には、「そういえば、そうだよ。なるほどね」の仕組みがあることを確認し、人を惹きつける魅力的な広告は、送り手と受け手のコミュニケーションの仕組みが作られていると説明した。そしてそれができると「人のところが動き、ものが動く。すなわち、コミュニケーションをデザインできる」と訴えた。

最後に岡本氏は、「大切なことは、誰が何のために、誰に何を伝えたいと思っているのか。だから何を言うか。どう言うか。ウケ狙いの表現、単なる描写はNGであり、送り手の都合じゃなく受け手にとっての価値を考えてください」と伝え、「皆さんの新しい提案で、どう視点を切り替えて、新しい価値を創り出すか。今までの固定観念をどうぶっ壊すか。広告の手法を取り入れながらチャレンジしてほしい」と語り、講演を締めくくった。

講演後は、富田氏から事業における「価値」に焦点を当ててレクチャーがなされた。まず富田氏は、価値というのは「誰かにとって役に立っているかの度合い」として説明し、事業においては



富田氏

顧客やステークホルダーに対してどんな価値があるか明らかになって、初めて収益性や市場性、採算性といった検討ができる」と訴えた。

そして、顧客が感じる価値は価格と同等以上でなければならない（そうでなければお金を払わない）とし、収益性を高めるためにできることは、コストを下げるか、価格を上げるしかない」と述べた。そのうえで、「価値が価格を上回っていないなかで、価格を上げようとするのは難しい。価格を上げるには価値をあげるしかない」と述べ、各自の事業における価値を分析することの大切さを説いた。

また、価値には「誰かの痛みを和らげる」または「誰かの喜びを増やす」という2種類があると説明し、自分のやりたいこと（課題）が実現（解決）したら「誰にどんな価値があるか」を考える演習が行われた。

最後に、各自の課題の解決策（ソリューション）を検討する際に大切なポイントとなる「ソリューションコンセプト」を検討することについて説明があった。ソリューションは、問題解決の具体的な方法を示したものである一方で、ソリューションコンセプトとは、手段を具体化しすぎることなく、問題解決の方向性を示したものとレクチャーしたうえで、解くべき問題と価値が分かっていない時に、具体的な議論をすると視野が狭くなり、ひとつだけのアイデアに陥ってしまうため、まずコンセプトを決定して本質を見失わないように抽象度をコントロールし、解決策の幅を広げることが重要であると説明した。

また、メンターには別室で、渡辺氏からメンタリングに求められるリーダーシップについてレクチャーがあり、「メンターは当たり障りの無いコメントをする立ち位置でもなく、好き勝手なことを言う立場でも無く、メンティのコンフォートゾーンの際で勝負する」といったいくつかのポイントが紹介された。その後は参加者のグループワークをメンターが観察し、傾聴する演習がなされた。



渡辺氏によるメンタリング講座

● Day 3 [11月26日(土)]

この日の特別講演には、兵庫県立大学大学院教授 内田 康郎氏が登壇し、「成功の確実性を高めるためのビジネスモデル」と題して講演がなされた。

内田氏はまず、ビジネスモデルの概念についてレクチャー。ビジネスモデルとは収益化までの仕組み（企業と市場を結びつける概念）であるとし、「誰に売するのか」「何を売するのか」をき

ちんと設定する必要があると説明した。

続いて内田氏は、誰に売するのか（市場）については、既存の顧客か新規の顧客かの2種類、何を売するのか（製品）については既存の製品か新規の製品の2種類があることを2×2のマトリクスを



内田氏

用いて説明し、それぞれの「市場浸透」「市場開発」「製品開発」「多角化」という4つの状況に応じて、求められる戦略を考えていく必要があると一同に説いた。

その後は海外企業や日本企業、富山県内の企業の事例を紹介。いずれの企業も「誰に売なのか」「何を売なのか」を明確化しており、そのために顧客を洞察し、どのような価値が評価されるかを把握していることを確認した。また、いずれの企業も独自の価値を創出し、価格競争を回避していると述べ、「市場浸透」型から脱出することに向け、体力の無駄遣いを避け、次なる市場を開発していることを説明した。

最後に内田氏は「ビジネスモデルで重要なのは、市場で評価される価値を創出し、確実性を高めるプロセスであること」と一同に伝え、講演を締めくくった。

その後は、富田氏からのレクチャーを開始。この日はビジネスモデルに焦点を当てた説明がなされた。富田氏は、自社の成功と失敗から学ぶことこそが、最も強烈な学びを得られる一方で、量が



浅林委員長



参加者との交流

限られるため、他社や他業界から示唆を得ることが重要であると語った。また、他の事例はそのままでは咀嚼しにくいと、できるだけ自分事として想像するために、抽象度を一旦引き上げて再構築したうえで、示唆を得ることが大切であると説明した。

また、まずは既存のビジネスモデルのパターンを認識することが有用であるとし、主要なビジネスモデル例がいくつか紹介された。

その後、各自の事業アイデアややりたい事が、紹介されたビジネスモデルのどのパターンに当てはまるかを考える演習がなされ、メンターも交えてグループワークが行われた。

● Day 4 [12月10日(土)]

年内最後のプログラムとなるこの日は、特別講師として元 Cyber Pal 代表取締役 彌重向太郎氏を招き、講演を実施。

彌重氏はまず、学生時代に事業を創り出した経験から学んだチームづくりの大切さを共有。ひとりでできることは小さいため、チームの力



参加者の質疑に答える彌重氏

で大きなことをしていくことが大事だと語った。

続いて実際に新規事業を通じて学んだポイントを紹介。なかでも「チームビルディングの難しさ」について触れた際、一同からは共感する様子が伺えた。彌重氏はチームビルディングについて、それぞれの強みや得意なことを把握して、そこを掛け合わせていくところが難しいとし、「各自の役割があって、補っていけることを大切。だからこそ安心して話し合える関係性が必要である」と訴えた。また、ユーザーの課題を解決するためにサービスは存在しているため、ユーザーの声をしっかりと聞くことが大切であるとし、そのうえで解決策を決めることが、新規事業責任者の仕事であるとしてレクチャーした。

次に、新規事業立案のポイントを紹介。彌重氏は5つのポイントとして、「①自分の身の回りの課題か②その課題は今後増えていきそうか③多くの人がお金を払ってでも解決したい課題

か④競合に打ち勝つ、競合が入ってこれられない理由はあるか⑤なぜ私たちのチームがその課題をその解決策で行うのか」を挙げたうえで、都合の良い解釈を行わずに、なぜ?役に立つのか?を問い続けることが大切であると語った。

また、アイデアが決まった際の進め方を、事例を交えて説明。ポイントとして「なぜ勝てるのか?を問い続ける」「自分の担当をやり抜きつつ、仲間へと手を差し伸べること」を紹介した。

講演を通じ、起業における現実や難しさ、ポイントを語ったうえで、彌重氏は「それでも起業は楽しい。一緒に頑張っていきましょう」と一同を励まし、レクチャーを終えた。

講演後は、グループワークを実施。事業における課題から解決策、ビジネスモデルといった一連のストーリーを各自でまとめ、グループ内



村上副委員長

でプレゼンし、全員でブラッシュアップを行うワークが実施された。

また、メンターチームでは彌重氏を交え意見交換や質疑応答を実施。メンタリングに関する疑問や悩みが活発に相談・共有され、メンターからはヒントや気づきを得る様子が伺えた。



熱心に学ぶ一同

来年度の海外経済視察を検討 ～ 第4回交流委員会 ～

12月27日(火)、第4回交流委員会(中沖雄委員長)を事務局で開催し、委員11名と大橋聡司アドバイザーが参加、今年度の海外経済視察(米国(オレゴン・サンフランシスコ)、7月31日～8月7日)の振り返りと来年度海外経済視察のテーマ・行き先等について検討した。

冒頭、中沖委員長と大橋アドバイザーが挨拶を行ったのち、議題に入った。今年度の海外経済視察の振り返りとして、新型コロナウイルスの感染対策が不十分で感染者がでたのが残念だった一方、視察先が多く充実しており、現地の政府・関係団体・企業経営者の方々との交流もあり良かったと評価する意見がでた。



中沖委員長

その後、来年度の海外経済視察のテーマ・行き先について意見交換をした。SDGs・環境、ジェンダー平等、デジタル化、ウェルビーイングなどの先進地視察を行うこととし、次回の委員会で旅行会社よりプレゼンテーションを受けることにした。



SDGs



キャリア教育を支援

～ 第7回教育問題委員会 ～

11月29日(火)、オークスカナルパークホテル富山において、第7回教育問題委員会（高瀬幸忠委員長）を開催し、委員16名が出席した。

高瀬委員長から、冒頭挨拶の後、9月29日から10月1日にかけての2泊3日の行程で「キャリア教育・インターンシップ最前線の視察」をテーマに実施した青森・関西視察の報告があった。委員長は、各視察先（おしごと体験広場キッズハローワーク、関西経済同友会事務局／教育問題委員会、関西キャリア教育支援協議会、大阪府教育庁、大阪市教育委員会）の取組み内容や、当会の活動の参考とすべき点を紹介したうえで、キャリア教育の最前線を学ぶとともに、視察に参加した5名の教員と交流を



高瀬委員長

深めることができ、充実した視察であったと述べた。意見交換の時間では、委員から「視察に参加した教員からの感想が聞けたらよい」「参加教員との交流を続けるべき」などの意見が出された。

続いて、高瀬委員長より、提言の骨子案、報告書の作成について説明があった。委員長は提言の骨子について、学校現場の負担を軽減し、キャリア教育の推進を支援するために経済界や地域社会、教育行政が連携する必要があると述べた。



意見交換



SDGs



脱炭素経営の取組み事例を学ぶ

— 第10回企業経営委員会 —

第10回企業経営委員会（伊勢徹委員長）を12月14日(水)、パレプラン高志会館で開催し、委員33名が参加した。

環境省中部地方環境事務所 統括環境保全企画官 林俊宏氏に脱炭素に関する国の制度や支援策について説明いただいた後、脱炭素経営に取り組む会員企業2社（北酸(株) 環境エネルギー部エネルギーソリューショングループ チームリーダー 佐伯拓也氏、(株)北陸銀行 経営企画部 サステナビリティ推進グループ 部長代理 島田善朗氏）による事例発表を行った。

佐伯氏からは、北酸(株)は環境省「CO₂削減ポテンシャル診断事業」の診断機関として、企業のエネルギー利用状況を検査・分析し、対策や運用改善の提案・設備導入に掛かる費用やCO₂

削減効果の試算等を行っているほか、「FIT 非化石証書」の取り次ぎサービスなどにより脱炭素経営に取り組む企業を支援していると説明があった。

島田氏からは、企業が脱炭素経営に取り組む必要性や、グループの中期経営計画に「環境」を重点戦略に掲げ組織横断的にサステナビリティ推進に努めていること、サステナブルな経営を後押しするための融資商品の取扱いにより顧客企業を支援していることなどの説明があった。

質疑応答の時間では、委員から数多くの質問がなされ、盛会のうちに終了した。



環境省 林氏



北酸(株) 佐伯氏



(株)北陸銀行 島田氏

朝乃山を応援しよう！

～ 第8回文化スポーツ委員会～

11月28日(月)、第8回文化スポーツ委員会（島田好美委員長）をオークスカナルパークホテル富山で開催し、委員ら40名が参加した。

今回は日本の国技である相撲をテーマに委員会を開催。司会を武内孝憲副委員長が務め、ゲストとして朝乃山富山後援会理事長青木仁氏、富山商業高校相撲部監督上田龍弘氏をお招きし、3人で「相撲談議」を行った。

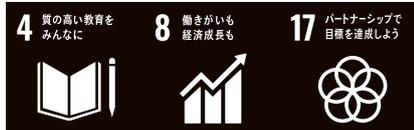
上田監督には相撲の起源・歴史、地方巡業の目的、階級と一門、角界に入門するための新弟子検査、力士の引退後の人生設



計（セカンドキャリア）など相撲全般について分かりやすく解説いただいた。

青木理事長には朝乃山の経歴について語っていただいた。相撲は幼少のころからしていたが、富山商業高校で恩師浦山英樹先生に出会い、厳しい指導を受け強くなったこと、進学した近畿大学でも着実に実力をつけ前高砂親方の元大関朝潮と浦山先生が近畿大学出身ということで高砂部屋に入門したこと、入門から大関までの活躍、新型コロナガイドライン違反による昨年7月から1年の出場停止（降格）から復活に至るまでの苦労話など詳しく説明いただいた。最後に武内副委員長が、令和5年1月22日（大相撲初場所千秋楽）に「相撲観戦ツアー」を企画し、両国国技館で朝乃山を応援することを紹介し委員会を終えた。

SDGs



部活動の地域移行について

～ 第2回アスリート支援小委員会～

第2回アスリート支援小委員会（尾城敬郎委員長）が11月29日(火)に事務局会議室で開催され、「公立中学校における部活動の地域移行」について富山市 市民生活部 スポーツ健康課との意見交換を行った。

はじめに尾城委員長から挨拶があり、部活動の地域移行に、現役を引退するアスリートがかかわれないか模索していきたいと意気込みを語った。



尾城委員長

その後、スポーツ健康課から現状のヒアリングを実施。部活動と地域クラブが混在していることによる難しさや、民間企業からの支援（指導者輩出）に際しては相応のインセンティブが必要になること、特殊競技等の指導者確保の難しさなど課題感の共有

がなされた。

また、人材会社を設立する、退職後に指導継続を志望する教員を活用するといったアイデアが挙がるなど、活発な意見交換が行われた。

当委員会は引き続き、部活動の地域移行とアスリート支援活動との連携を検討していく方針であり、関係各所との情報交換を進めることとしている。



意見交換の様子



将来に向けて、今やるべきこと

— 課外授業講師派遣 —

第13回 高岡市立志貴野中学校

令和4年11月8日(火)、高岡市立志貴野中学校において、2学年173名に対して、在田吉宏氏(株アリタ取締役社長)、稲田祐治氏(加越能バス株相談役)、尾山謙二郎氏(マンパワーセキュリティ株代表取締役)、土屋誠氏(日本海ガス株取締役社長)、張田真氏(ハリタ金属株代表取締役)の5氏が、「将来に向けて、今やるべきこと」をテーマに課外授業を行った。

<在田 吉宏氏 (株アリタ取締役社長)>

在田社長は、はじめに、「仕事は社会との接点の1つである」とし、仕事を通じて社会貢献し、仕事を通じて社会から色々なことを学ぶことができると述べた。

そして、社会との接点は、仕事だけではなく、学校や地域や経済団体など様々なものがあり、接点を多く持ち、様々な社会と繋がることで多くの良い経験ができるので社会との接点をできるだけ早く、たくさん持つべきだと説いた。

次に、「だまし絵」をいくつか紹介しながら、物事を1つの視点でとらえずに角度を変えて見ることで全く違うものが見えてくる、1つの視点だけで見ていてはもったいないと語った。

続けて、「様々なことに向き合い、チャレンジすることで自分の世界を広げることができる。向き合うこととは、自らが興味を持って、考え、知ろうとする努力をすること。努力に結果が必ず伴うわけではないが、努力することで成長することができる。また、物事に向き合うことで、自然と自分の考え方ができてくるので、周りに流されて何となく過ごすのではなく、自分の考えで物事と向き合って行動してほしい」と述べた。

最後に、「世界はどんどん変化し、広がっている。広がる世界をすべて理解することは無理だが、理解しようと同じく努力することで、成長することができる。社会との接点を増やし、接点を深くすることでチャンスが生まれる。そのチャンスを生かし、豊かな想像力で豊かな世界をつくらせてほしい」と強調して授業を締めくくった。



<稲田 祐治氏 加越能バス株相談役>

稲田相談役は、はじめに、自己紹介として、自身の半生を振り返った。

何の目標もなく勉強にも身が入らなかった中学時代。結果として高校受験に失敗したという苦い経験。自動車に興味を持ち、将来のやりたい仕事、自分の生き方を思い描きながら勉強した高校・大学時代。就職先は、地元富山で働きたいとの思いから富山地方鉄道を選択。そこでは、3K職場、慣れない専門用語、飛び交うぶっきらぼうな言葉など、辛いこともあったが、共に働く同僚と仲間意識が芽生え、同じ目標に向かって一緒になって働くことの大切さを学ぶことができた。

そして、人生浮き沈みがあったが、目標をつかめず苦勞したことと、就職してからの貴重な現場体験があったからこそ今の自分があると語った。

次に、コミュニケーション力、行動力、積極性など、社会人に求められる能力をいくつか挙げたうえで、「最も大切な能力は、誠実さ。嘘をついたり隠し事をしたりせず、周りから信頼されることが人として大切である」と説いた。

最後に、「将来の目標をしっかりと持ち、今何をすべきか考えてほしい。14歳の挑戦によって将来についていろいろと感じることができたなら、皆さんはその分成長し、社会に近づいたことと思う。私は昨年度社長を退いたが、富山県の鉄道路線維持の課題に取り組むために、自分の経験を活かして会社を立ち上げ、今、「66歳の挑戦」をしている。皆で共に頑張っていこう」と熱く語り授業を締めくくった。



<尾山 謙二郎氏 マンパワーセキュリティ(株)代表取締役>

尾山社長は、はじめに、トップの人間が権限と責任を持ち、下の人間は権限も責任もない「ピラミッド型」社会から、1つのミッションに個々の人間が責任を持って主体的に関わる「コスモス型」社会に変化し、自己責任が強くて回る時代になったと語った。

続けて、そのような時代には、物事を判断する「ものさし」を心の中に持っておかねばならず、そのものさしは、損得でも正誤でもなく、善悪のものさしを持つべき。善悪で物事を判断すると、時には損をすることもあるが、善悪はぶれない基準なので、人の信頼を得ることができると述べた。

次に、「何のために働くか」を生徒たちに問いかけ、働く目的は順番が大切だと説いた。そして、「まずは自分の欲望を満たすために働き、次に、家族など守るべきもののために働き、最後に社会のために働いてほしい。人間は自分をなくすことはできない。自分を大事にできない人は他人を大事にすることはできない。最初から社会のために働こうとすると長続きしない。順番を間違えないでほしい」と述べた。

最後に、自身は多くの挫折と失敗を繰り返してきたと語り、「挫折や失敗は挑戦の証。挫折や失敗には必ず意味があり、苦しくても真っすぐに向き合い、自分に何が足りなかったかを考え、学ぶことで苦しみから抜け出し、成長できる。周囲に責任をなすりつけては苦しみから抜け出せない。挫折・失敗はチャンスだと思って正対してほしい」とエールを送り授業を締めくくった。



<土屋 誠氏 日本海ガス(株)取締役社長>

土屋社長は、はじめに、「将来就きたい仕事」を生徒たちに問いかけた。そして、今は「やりたい仕事の内容」を思い浮かべるが、実際に就職先を考える時には、「どの会社に入るか」という選択肢が変わる。すべての人が希望する会社に就職できるわけではないし、希望の会社に入っても、やりたい仕事ができるわけではない。自分が思っていたのと違う仕事をしなければならないことがあることを覚えてほしいと述べた。

次に、日本海ガスの仕事を紹介しながら、人は何を目標に働くのかを語った。

1つ目は、自分の頑張りが周囲に認められること。

2つ目は、お客様から「ありがとう」と感謝されること。

3つ目は、大きな仕事やプロジェクトに個人、チーム、会社全体で取り組んでそれを達成した時の達成感。

4つ目は、会社の使命を担っているという使命感・責任感。

5つ目は、日々の自分の頑張りが誰かの役に立っていると感じる満足感。

そして、これら5つは、働いて初めて感じるものではなく、学校生活や家庭生活の中でも感じることができ、その時に、「こういう気持ちで、将来働いた時に、仕事を頑張ろうと思うきっかけになるのだな」と感じてほしいと語った。

最後に、東日本大震災直後、供給停止したガスの復旧のために被災地に応援社員を派遣し、現地の人々から感謝されたエピソードを語り、「将来皆さんが働くときには、自分の仕事が誰かの役に立っているという満足感をぜひ感じてもらいたい」と強調し、授業を締めくくった。



<張田 真氏 ハリタ金属(株)代表取締役>

張田代表は、冒頭、今日は生き方を考える上で重要な「幸せ」について学び、生き方を考える機会にしたいと述べた。そして、幸せとは何かを考えるには、人体の仕組みの「なぜ？」を理解せねばならないと説いた。

まず、人類500万年の歴史の中で、250年前の産業革命以降、科学技術の発展により社会は激変した。その一方で生物の進化は遅く、人間の本能は変わっていない。人間は本能で「変化は危険」と感じるが、安全な現代社会ではこの安全機能は不要。何かにチャレンジすることは「変化」であるため、本能が「変わるな」という方向に働く。人間は自らの力では変わらないようにできていると知っておくことが重要であると述べた。

また、人間の脳は入力した情報・思い・イメージよりも出力した情報・言葉・動作に7倍の影響を受けるので、プラスの言葉、動作を発して、脳をプラス思考にしてほしいと語った。

最後に、「幸せはなるものではなく、感じるもの。小さなことに幸せを感じるトレーニングをすることが幸せになる最短距離。」「人の役に立っていると感じると、オキシトシンという幸せホルモンが出る。このホルモンは持続性が長いので幸せを長く感じられる。オキシトシンが働くような人生、人や社会に貢献する生き方が幸福を感じさせる。勉強することは大変だが、将来的には人の役に立つことに繋がっていく。地球温暖化など地球は課題に満ちており、皆さんの力が必要。地球に生きる1人の人間として将来皆さんに活躍してもらいたい」とエールを送り授業を締めくくった。



第14回 富山市立蜷川小学校

令和4年12月8日(木)、牧田和樹氏(株)牧田組社長が富山市立蜷川小学校にて6年生131名を前に「なりたい自分になろう」をテーマに課外授業を行った。

牧田社長は、はじめに、「人は今までできなかったことができるようになった時にうれしいと感じる。自分の成長を実感することで幸せを感じることができる」と述べた。

そして、「成長を実感するには、人に評価されることが必要。人の役に立って、評価されて、成長を実感して、幸せになる。これは、社会に出ても同じ。会社は、お客さんの役に立つことで評価され、お客さんがさらに増えて儲かる。会社員は、お客さんの役に立つことで会社から評価されて給料が上がる。社会全体が同じ仕組みで動いている」と語った。

次に、「将来何かをやりようという思いがあっ

ても、結果を出せなければやらなかったことと同じ。結果を出す力を身につけるために、今皆は学校で勉強している。将来人の役に立つために必要なので、学校での勉強を疎かにしないでほしい」と勉強の大切さを説いた。

質疑の時間では、多くの児童から質問の手が挙がった。最後の質問「人生で大切にしていることは？」に対し、牧田社長は、「人との出会いを大切にしている。人の役に立って認められることで幸せになれるが、人との付き合いがないとそれが無い。人への思いやりをもって、多くの人と人脈をつくるのが幸せにつながる。皆も思いやりをもって人と接してほしい」と語り授業を締めくくった。



第15回 黒部市立生地小学校

令和4年12月13日(火)、牧田和樹氏(株)牧田組社長が黒部市立生地小学校にて5、6年生48名を前に「よく生きること」をテーマに課外授業を行った。

牧田社長は、はじめに、「今起きているものごとには必ず理由・原因があり、人間関係も同じ。人と意見がぶつかった時は、まずは何が原因か互いに話し合って、合意できる点を見つけていくと人間関係がうまくいく」と語った。

続けて、「人間には皆、心があることを忘れないでほしい。自分のことばかり考えていると相手を傷つけてしまい、誰にも相手にされなくなってしまう。話し合い、共感することで心を分かり合うことができる」と説いた。

次に、「社会に出ると正解のない問題に直面することが増える。「知識」と「人からの情報」

の2つを組み合わせることで正解のない問題を解くことができるが、2つのうち、より大切なのは、人からの情報。知識は一方方向に入ってくるだけだが、人からの情報は双方向。人とやり取りすることで、自分が知りたい情報に照準を合わせていくことができる」と説明した。

そして、「正解のない問題を解くために絶対に必要なのは、「情報をくれる人=友達」。友達をたくさんつくってほしい。そのためにも、自分勝手にならず、相手にも心があることを意識して、その人の言動の理由を考えてあげてほしい」と人を思いやることの大切さを改めて強調し、授業を締めくくった。



第16回 富山県立富山高等支援学校

令和4年12月16日(金)、山野昌道氏(株)チューリップテレビ取締役社長が富山県立富山高等支援学校にて全校生徒41名を前に「人生を幸せにする3つのコツ」をテーマに課外授業を行った。

山野社長は、はじめに、「働くこととは、社会をつくる一員になることである。社会は皆でつくるもの。学生の間は社会に育てられているが、卒業したら、働いて、皆で協力して社会をつくっていかなければならない」と働くことの意義を説いた。

続けて、「自分が向いている仕事や自分の夢はなかなか見つけられないが、どうしても見つけたければ、考え続け、行動し続けるしかない」、「努力した人が皆成功しているわけではないが、成功した人は皆努力している」と語り、行動する

ことと努力することの大切さを強調した。

次に、「人生を幸せにする3つのコツ」として、①迷ったらやる：やってすぐ後悔よりやらなくて後悔の方が大きいので、迷ったら「やる」方を選ぶべき、②人のせいにならない：悪いことがあると人のせいにしたくなるが、それでは何も解決しない、③何をやってもうまくいくと考える(ポジティブシンキング)：後ろ向きの考え方ではものごとはうまくいかない、「なんとかなる!」と前向きな考え方をする、の3つを紹介した。

最後に、「未来は今日一日の積み重ね。充実した未来のために充実した今日を送ってほしい」とエールを送り、授業を締めくくった。



リーダーに求められるのは“幅広い交流による人間的魅力向上” 中尾特別顧問 富山市管理職特別セミナーで講演 令和4年5月 富山県幹部職員研修でも講演



令和4年11月10日(木)、中尾哲雄特別顧問は富山市役所の管理職約100名を対象とした研修「管理職特別セミナー」において「富山市幹部のみなさんへ」と題して講演を行った。

中尾特別顧問はまず、小学生・大学生の頃のエピソードや(株)インテック創業からの歩みなどを紹介。たくさんの人との出会いがあり、そのつながりが生活や学業、ビジネスに生きる場面が多くあったとし「これからは国際化だけでなく学際化・地域際化・世代際化・業際化など、様々な分野や世代間での、幅広い交流を積極的に行うことがさらに求められる」と語りかけた。

次に“創造”とは、辞書では“新しいことを作り出すこと”とされているが、インテックでの事業を例示し「創造とは、複数(のリソース)を融合させることにより新たな価値を生み出すこと。“創造とは組み合わせ”である」と強調した。続けて、リーダーに求められる資質として、知性や説得力

などの根底となる“やさしさ”や“人間的魅力”であるとし「視野を広めること、心身を鍛えることだけでなく“感動する”ことも必要」と訴えた。また、失敗は最高の学びの機会であるとし「すみません、と謝罪するのは反省ではない。なぜ失敗したのか、その原因を考えることが大事。最近の若い世代は失敗を恐れるあまりマニュアル人間化の傾向がある。成長を促すためにも、失敗から学び、これを経験として組み込んでいくことが必要」と説いた。

最後に、人との出会いや様々な活動、経験の積み重ねを砂時計に例え「これまで取り組んできたことは、体の中に、心の中に蓄積されている。これまで培った経験や人とのつながりを活かし、素晴らしい時を刻んでほしい」と激励し、講演を締めくくった。

(中尾氏は令和4年5月、「県職員への期待」
-私の60年の歩みから-)と題して富山県幹部職員約120名にも講演を行った。

ミドルリーダーへのメッセージ 大橋聡司氏 中堅教諭等資質向上研修で講演



令和4年11月22日(火)、大橋聡司氏(大高建設(株)取締役社長)が、経験年数11年目の教職員169名を対象とした中堅教諭等資質向上研修(富山県教育委員会主催)にて「ミドルリーダーとしての自覚(役割)」と題し講演を行った。

大橋社長ははじめに、学校の多忙化で教員のなり手が不足し、それが日本の教育、ひいては社会全体の衰退につながりかねないと、学校多忙化に対する強い危機感を示した。

そして、日本の一人当たりGDPの世界順位が年々下がっており、その原因が日本の生産性の低さにあると説明したうえで、「日本は生産性の低さを長時間労働で補うことで世界第三位の経済大国に留まっているが、教員が長時間労働すると、子どもたちが長時間労働を当たり前と思うようになり、その子どもたちが社会に出ても生産性が向上しない。教員が自身の長時間労働にまず疑問を持ってほしい。それが子どもたちの明るい将来につながる」と強調した。

次に、受講者に「学校の顧客は誰？」と

問いかけた。「子ども」という声が多く挙がったが、大橋社長はそれも正解としつつ、学校の顧客は「社会」であり、社会で役立つ子どもを育てる使命が教員にあると語った。そして、欧米では働くことを前提とした様々な教育を行っており、日本でも子どもが将来社会に出たときにどうなっていてほしいかを意識した教育を行うべきだと説いた。

最後に、将来の予測が困難な時代において、学校が子どもたちに身に付けさせるべき能力として、「生徒に社会に貢献し、雇用される能力、そして『道徳』を身に付けさせることが求められる」とするピーター・ドラッカーの言葉を紹介し、「日本人には世界に誇る高い道徳心が備わっている。それを活かしつつ、教員が社会を顧客だと意識し、社会に貢献する子どもたちを育てることが、子どもたちの将来にもつながる」と熱く語り講演を締めくくった。



一生、学び続けることに出会った幸せ

田村 元宏

(株式会社タムラ設計・代表取締役)

人と触れ合うことは、大きな学びの一つであるとは思いますが、子供の頃、学校に行くことについて私の目的は、友達と遊ぶことと、好きな女の子に会うことでした。高校生の頃、私は田んぼの真ん中にあった学校から見える広く綺麗な空を眺め、授業中ずっと、流れる雲を眺め“ぼー”っと空想に耽っていました。

おそらく初めて学ぶことを面白いと私が感じたのは受験予備校生の頃。当時、四畳半一間、風呂なし共同便所の下宿屋で、クラシック音楽CDをBGMとして流しながら受験勉強をしていました。

同じ下宿屋で暮らしていた当時東京大学法学部3年生のH・YさんからクラシックのCDを借りることとなり、部屋にCDを借りに行くと、同じ音楽のCDを5枚渡されました。「全部ピアニストが違うから聞き比べてごらん。きっとその中で気に入るピアノソナタが見つかるよ。」と言われたことが衝撃的でした。

同じ音楽をピアニスト別で聴くという深掘りに、知る喜びと比べ探す楽しみを感じました。「実に面白い。」そう思っていたところ、H・Yさんは、私に「受験勉強も一緒だよ。」とおっしゃいました。「ああ～!!なるほど。」この一言が私の人生の大きな気付きとなりました。

私は知らないことを知り、それを自分で調べて味わうという贅沢な喜びに出会い、そして、一つのことはすべてのことに通じることを教えていただきました。

時が流れて私も社会人になり、建築士の資格を取った頃、家相（風水）に出会いました。入口は九星気学と易経をベースとした東洋思想を取り入れた経営者のための講座でした。

二つの学問を学ぶことが家相（風水）を知る基礎とのことで、師匠の下で学びはじめました。

九星気学は人と人との関係性を学ぶ学問で、学べば学ぶほどその深奥に引き込まれます。易経は人智を超えた壮大な宇宙の原理を読み解く鍵のような智慧・知識体系で、九星気学の裏付けとなる理論があります。面白いのは、二つの学びに共通して何か特別な凄いことではなく、日々の生活の中に息づいている智慧でした。一つ一つを選択している自分自身の心にこそ九星気学と易経のいう宇宙の真理があることに気付きました。

よく、「占いの一種でしょ？当たるも八卦当たらぬも八卦でしょ？」と言われます。“占い”の語源は“裏成り”で、起こる事象の“裏の成り立ち”を示している言葉です。“裏の成り立ち”を理解した上で、起こる事象にどう対処するか？が最も重要です。裏成りのヒントを得て、何もしなければ、当たるも八卦当たらぬも八卦になります。対処の方法を“縁”^{えん}と言い、「縁を引き寄せること・縁を起こすこと」を“縁起”^{えんぎ}と呼びます。「原因と結果」を“因果”と呼びますが、“因果”を変える“縁”を大事にすることが、九星気学の奥義となります。例えば、湯呑を落とすと割れます。これを“因果”。地面に落ちる前にキャッチすると割れないこれが“ご縁”です。

私は日々の中で出会う様々な“ご縁”に感謝して、より素晴らしい“ご縁”を起こすことができる「“縁起”の良い人」になり続けるよう一生学び続け、学べば学ぶほど新たな“ご縁”に出会えることに大きな幸せを感じます。

今回は、このリレーエッセイに投稿させていただける“ご縁”を頂き、有難うございます。

（ 次号は日本海電業(株)代表取締役の
若林健嗣 様です。 ）

活動報告

11月1日～12月31日

○幹事会・定例会等

開催日時・場所	内 容	出席者
12月8日(木) 16:30～20:40 ホテルグランテラス 富山	海外経済視察報告会・会員定例会（地域創生委員会主管）・ 年末懇親会 講師：(株)鹿島アントラーズ・エフ・シー代表取締役社長 (株)メルカリ 取締役会長 小泉 文明 氏 演題：「鹿島アントラーズが考える地域の将来像」	約180名

○委員会

開催日時・場所	委員会名	内 容	出席者
11月1日(火) 11:30～13:00 事務局会議室	人財活躍委員会 第10回正副委員長会議	・提言の方向性 ・スケッチオーデション2022 ・2023年3月定例会	9名
11月12日(土) 13:00～17:00 富山大学	人財活躍委員会	起業家支援事業 「スケッチオーデション Day 2」	3名
11月18日(金) 福井県	第14回地域創生委員会	福井視察会（東尋坊、三国の街並み、 一乗谷朝倉氏遺跡、養浩館庭園等）	16名
11月26日(土) 13:00～17:00 富山大学	人財活躍委員会	起業家支援事業 「スケッチオーデション Day 3」	2名
11月28日(月) 17:00～20:10 オークスカナルパーク ホテル富山	第8回文化スポーツ 委員会	相撲談義	40名
11月29日(火) 13:00～14:00 事務局会議室	第2回アスリート支援 小委員会	富山市スポーツ健康課との意見交換会	7名
11月29日(火) 17:00～20:10 オークスカナルパーク ホテル富山	第7回教育問題委員会	・第6回教育問題委員会（青森・関西 視察）報告 ・提言について ・活動報告書作成について	16名
12月1日(木) 県内酒造会社（4社）	第15回地域創生委員会	富山マイクロ日本酒ツーリズム	18名
12月10日(土) 13:00～17:00 富山大学	人財活躍委員会	起業家支援事業 「スケッチオーデション Day 4」	3名
12月14日(水) 17:00～20:10 パレブラン高志会館	第10回企業経営委員会	脱炭素に関する国の制度や支援策の紹介 講師：環境省中部地方環境事務所 統括環境保全企画官 林 俊宏 氏 脱炭素経営の取組み事例発表 発表者： ・北酸(株)環境エネルギー部 エネルギーソリューショングループ チームリーダー 佐伯 拓也 氏 ・(株)北陸銀行 経営企画部 サステナビリティ推進グループ 部長代理 島田 善朗 氏	33名
12月16日(金) 11:00～12:30 事務局会議室	企業経営委員会 第12回正副委員長会議	今後の活動スケジュールについて	9名
12月19日(月) 16:30～20:30 ラ・ロカンダ・デル・ ピットーレ環水公園	企画委員会	第3回委員長連絡会議	7名

開催日時・場所	委員会名	内 容	出席者
12月21日(水) 16:00~19:30 富山電気ビルディング	第2回とやま観光 小委員会	フィールドワークフォトコンテスト 審査会	19名
12月27日(火) 12:00~13:30 事務局会議室	第4回交流委員会	今年度海外経済視察の振り返り 来年度海外経済視察について	12名

○課外授業講師派遣

開催日時	学 校	対 象	講師・演題
11月8日(火)	高岡市立志貴野中学校	2学年 173名	在田 吉宏 氏、稲田 祐治 氏 尾山 謙二郎氏、土屋 誠 氏、張田 真 氏 「将来に向けて、今やるべきこと」
12月8日(木)	富山市立蛭川小学校	6学年131名	牧田 和樹 氏「なりたい自分になろう」
12月13日(火)	黒部市立生地小学校	5・6学年48名	牧田 和樹 氏「よりよく生きること」
12月16日(金)	富山県立富山高等支援学校	1~3学年 41名	山野 昌道 氏 「人生を幸せにする3つのコツ」

○同友会諸会合

開催日	内 容	場 所	出席者
11月4日(金)	第9回5経済同友会教育担当委員会交流会 (栃木県経済同友会主管)	オンライン	委員16名 教員2名
11月8日(火)	北陸3県経済同友会代表幹事と (公社)経済同友会幹部との意見交換会	福井県	麦野代表幹事 塩井代表幹事 牧田代表幹事
11月24日(木) ~25日(金)	第13回日本海沿岸地域経済同友会代表 幹事サミット(鳥取県経済同友会主管)	鳥取県鳥取市	会場12名 オンライン7名
12月5日(月)	2022年度「代表幹事円卓会議」	群馬県高崎市	麦野代表幹事 有藤事務局長

○その他の会合

開催日	内 容	場 所	出席者
11月6日(日)	富山マラソン2022開会式	高岡市役所前	麦野代表幹事
11月9日(水)	第2回委員長会議	富山電気ビルディング	19名
11月10日(木)	日本海沿岸地帯振興促進議員連盟ならびに日 本海沿岸地域連盟令和4年度議員連盟総会他	ザ・キャピトル ホテル東急(東京)	麦野代表幹事
11月10日(木)	富山市管理職特別セミナー(講師)	富山市役所	中尾特別顧問
11月16日(水)	北陸新幹線建設促進大会	明治記念館(東京)	牧田代表幹事
11月21日(月)	新会員歓迎オリエンテーション・懇親会	ANAクラウン プラザホテル富山	53名
11月22日(火)	令和4年度中堅教諭等資質向上研修(講師) (富山県教育委員会主管)	富山県総合教育 センター	大橋副代表幹事
12月1日(木)	G7教育大臣会合富山県委員会設立総会	富山県民会館	麦野代表幹事
12月4日(日)	北陸経済界と経済産業省との懇談会	ホテル日航金沢	牧田代表幹事
12月7日(水)	あいの風とやま鉄道利用促進協議会幹事会	富山県民会館	有藤事務局長
12月15日(木)	第3回とやまスタートアップ戦略会議	オンライン	麦野代表幹事
12月15日(木)	T-Messe2023富山県ものづくり総合見本 市第1回運営委員会	富山県民会館	有藤事務局長
12月16日(金)	第20回あいの風とやま鉄道利用促進協議会	富山県防災危機管 理センター	麦野代表幹事
12月27日(火)	「富山マラソン2022」第2回実行委員会	パレブラン高志会館	麦野代表幹事
12月27日(火)	とやま学校多忙化解消推進委員会	富山県民会館	大橋副代表幹事

■第26回 富山景気定点観測アンケート

2023年前半の景気見通しは判断が分かれる

企業経営委員会（伊勢徹委員長）は、昨年12月に「第26回富山景気定点観測アンケート」を実施した。2023年前半の景気見通しや各社の業績予想、SDGsの取組状況、新型コロナの影響、原材料・エネルギー価格上昇による影響について164社（回答率40.2%）から回答が寄せられた。

主な項目

<p>◆2023年前半（1～6月）の景気見通しは？</p> <p>緩やかに拡大する 32%</p> <p>横ばい状態が続く 38%</p> <p>緩やかに後退する 25%</p> <p>後退する 5%</p>	<p>◆2023年1～3月期の売上高（予想）は？</p> <p>増収 30% 横ばい 51% 減収 19%</p> <p>◆2023年1～3月期の経常利益（予想）は？</p> <p>増益 22% 横ばい 48% 減益 30%</p>
<p>◆SDGsの対応状況は？</p> <p>既に対応を行っている 63%</p> <p>対応を検討している 17%</p> <p>内容は知っているが、 特に対応は検討していない 19%</p>	<p>◆原材料・エネルギー価格上昇による、現時点の影響は？</p> <p>影響が大きい 57%</p> <p>ある程度影響がある 32%</p> <p>それほど影響はない 11%</p> <p>影響はない 0%</p>
<p>◆新型コロナによる、今後の収益への影響は？</p> <p>影響は中立 38%</p> <p>ややマイナス 27%</p> <p>マイナス 20%</p>	<p>◆原材料価格上昇分について 十分な価格転嫁を行えているか？</p> <p>不十分 82%</p> <p>十分 18%</p>

今後の予定

開催日	対象	行事	場所
1月24日(火)	全会員	1月会員定例会 講師：(株)日本M&Aセンター 代表取締役社長 三宅 卓 氏	オークスカナルパーク ホテル富山
2月7日(火)	全会員	第11回企業経営委員会（拡大委員会） 講師：日本銀行金沢支店長 吉濱 久悦 氏	ホテルグランテラス 富山
3月6日(月)	幹事以上	3月幹事会	富山電気ビルディング
3月6日(月)	全会員	3月会員定例会 講師：(株)プロノバ 代表取締役社長 岡島 悦子 氏	富山電気ビルディング
4月11日(火)	幹事以上	幹事会	富山電気ビルディング
4月13日(木) ～14日(金)	全会員	第35回全国経済同友会セミナー （長崎経済同友会主管）	長崎市内
4月26日(水)	全会員	令和5年度定時総会・懇親会	ANAクラウンプラザ ホテル富山

※新型コロナウイルス感染状況により、変更となる場合がございますのでご了承願います。

哀 悼



当会幹事の綿貫勝介氏（トナミホールディングス(株)取締役社長）は令和4年12月23日にご逝去されました。

享年63歳。心からご冥福をお祈り申し上げます。

〔表紙写真〕

12月会員定例会

12月会員定例会（小泉文明氏講演会）の様子。プロサッカーチームとスタジアムを舞台に、行政・企業・サポーターが連携する先進的な取組みを参加者は大変熱心に聴き入っていた。

発 行 所

富山経済同友会

富山市牛島新町5番5号 インテックビル4階

電 話 (076) 444-0660

F A X (076) 444-0661

e-mail: doyukai@po.hitwave.or.jp

https://www.doyukai.org/



1987年6月6日
「ギザの3大ピラミッド」前にて



1987年6月3日
アスワン空港に到着したときの喜びの丸



エジプトは遠かった

株式会社ライフサービス 代表取締役

伊勢 徹

青春真っ只中と言えば大学生時代前後なのだろうが、これと言って特筆することもなく途方に暮れてしまいました。アルバムを引っ張り出してみたところ、新婚旅行のエジプトの写真が出てきました。今から35年前、ハワイやグアムなどは、いつか行くのではと思い、誰も選ばないであろうエジプト9日間の旅にしました。品川で前泊し、翌日に成田にリムジンバスで向かいました。旅行代理店に手続をしに行くと、「ホテルにパスポートをお忘れになっていらっしゃいましたので、次のバスで届けるとの連絡がありました」。忘れたことも知らずびっくり。確認不足の癖はこんな時にも出てしまったようです。夕方のフライトだったので何とか間に合いました。エジプト航空の飛行機が滑走路から飛び立とうとエンジンの出力を上げ走り出しました。ところが途中で出力ダウン。駐機場に戻ってしまい、ターミナルビルで待つこと3時間。「機器のトラブルでフライトは明日になりまし

た」とのアナウンスが。こんなことがあるのかと不思議に思いながら近くのホテルで一泊。昼過ぎ、不安な気持ちの中、無事に空へ。乗客から拍手があったことを覚えています。南周りなので途中、マニラ、バンコクに立ち寄り、カイロ空港到着したのも東の間、国内線でアスワンに。自由席だということにびっくりし、やっとホテルに到着しました。ポストンバックを開けることが出来なかったので品川のホテルに着ていた服のままの写真があります。歴史と遺産の宝庫のエジプトは興味の尽きない楽しい旅でしたが、ツタンカーメンの黄金のマスクが木組みのガラスケースに収まっていたことにびっくり。ホテルにパスポートを忘れ、飛行機の機器トラブルで一日遅れ、南周りの長いフライトと遠くて長い道のり。帰国後に聞いた話では機器トラブルというのは真っ赤な嘘で自国の要人を乗せるために一日送らせたという落ちまでついていた新婚旅行でした。